

## 近畿地域経済産業の動向（平成19年2月調査）のポイント

平成19年3月5日  
近畿経済産業局

### 近畿の景況は、「改善している」

近畿経済産業局は、2月において近畿地域の256の企業等に対してヒアリングを実施。その結果を「近畿地域経済産業の動向」としてとりまとめ、本日、経済産業省において開催された「拡大経済産業局長会議」の席上、久貝近畿経済産業局長から甘利経済産業大臣に報告しました。

今回の調査の総括判断は平成18年10月調査時に引き続き、「改善している」としています。

### 1. 全体の動向

近畿地域の経済は、生産は横ばい、個人消費も横ばい傾向で推移しているものの、輸出が好調に推移し、設備投資も増加、雇用も緩やかに改善するなど、引き続き改善している。

先行きは、輸出の好調に加え、設備投資の増加などから、緩やかに改善することが見込まれるが、原材料価格の高騰、公共事業費の削減などの懸念材料がみられる。中小企業は、これらに加え、金利の上昇の影響も懸念される。

地域経済産業調査における項目別基調判断

項目	前回調査(18年10月)	今回調査(19年2月)	前回調査との比較
総括判断	改善している	改善している	
業況	引き続き改善している	引き続き改善している	
生産	上昇傾向にある	横ばい	
設備投資	増加	増加	
雇用環境	緩やかに改善している	緩やかに改善している	
個人消費	緩やかに増加している	横ばい傾向	
観光	外国人観光客も増えており、総じて好調	外国人観光客も増えており、総じて好調	
資金調達環境	資金需要は概ね横ばい、金融機関の貸出態度は引き続き積極的	資金需要は概ね横ばい、金融機関の貸出態度は引き続き積極的	
住宅	堅調に推移	堅調に推移	
公共事業	低調に推移	低調に推移	

## 2. 個別の動向

### (1) 業況 - 引き続き改善 -

業況は、引き続き改善している。しかし、業種ごと、企業ごと、事業分野ごとの好・不調の差は、引き続き残っている。中小企業においては、経常利益が悪化しているものの、雇用の不足感が続いているなど、景況感は一進一退となっている。

### (2) 生産 - 横ばい -

生産は、多様な用途で需要が増加している電子部品・デバイスが好調を維持しているなかで、高付加価値商品を中心に好調な電気機器及び自動車、造船関連を中心に鉄鋼、輸送機械が引き続き上昇傾向ではあるものの、一般機械においては高水準ながら横ばいで推移し、繊維、紙・パルプ、窯業・土石に弱い動きみられなど、総じてみれば、生産は横ばいとなっている。

### (3) 設備投資 - 増加 -

設備投資は、引き続き積極的な姿勢の企業が多く、増加している。

製造業では、高炉や薄型パネルなどの積極的な能力増強投資の動きが続いている。非製造業においても、発電所の建設や百貨店の建て替え、大型複合商業施設の新規立地など、引き続き積極的である。

### (4) 雇用情勢 - 一部で採用が困難となるなど、引き続き改善 -

一部に必要な人材の採用が困難となるなど、雇用情勢は緩やかに改善している。

### (5) 個人消費 - 横ばい傾向 -

個人消費は、雇用情勢や雇用情勢が改善するなかで、薄型テレビ等のデジタルAV機器等が好調に推移するものの、暖冬により冬物の売れ行きが鈍り、全体としては横ばい傾向にある。

### (6) 観光 - 総じて好調 -

近畿地域への入域動向は、外国人観光客の増加や暖冬効果により、総じて好調に推移している。

### (7) 資金調達環境 - 資金需要は概ね横ばい -

資金需要は、概ね横ばいで推移している。

金融機関の貸出態度は、業績の向上している企業を中心に、全体として引き続き積極的である。

### (8) 住宅 - 堅調に推移 -

戸建住宅は全体としてやや減少傾向であるものの、団塊ジュニア世代を中心とした需要は今後も期待される。分譲マンションは全体として堅調に推移しており、賃貸住宅は依然好調に推移している。

### (9) 公共事業 - 低調に推移 -

### (10) 原材料価格の高騰 - 価格転嫁できないところもみられ、収益減少要因 -

原材料価格は銅、アルミ、ニッケル、クロム、チタン等が高騰している。中小企業を中心に、依然製品価格へ転嫁できないところもみられ、収益減少要因となっている。

#### (問合せ先)

近畿経済産業局 総務企画部 調査課 池上、横田、阪谷

電話：06-6966-6004 (直通)

FAX：06-6966-6074